

都市再生整備計画 事後評価シート

和泉中央駅周辺地区

令和6年2月

大阪府和泉市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 大阪府 | | 市町村名 | 和泉市 | | 地区名 | 和泉中央駅周辺地区 | | | 面積 | 44 ha | | |
|--------------------------------------|---|-------------------|-------------------------|---|----------|---------|-----------|------------------------|--------|--------|---------|---|------|
| 交付期間 | 令和2年度～令和4年度 | | 事後評価実施時期 | 令和5年度 | | 交付対象事業費 | 575.0百万円 | 国費率 | 0.5 | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 基幹事業 | 事業名 道路(和泉中央線 交差点改良)、地域生活基盤施設(情報版、和泉中央駅前広場)、高質空間形成施設(和泉中央駅前広場(緑化施設等)、和泉中央駅前広場(歩行支援施設等)) | | | | | | | | | |
| | | | 提案事業 | - | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | 事業名 | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | | |
| | | | 提案事業 | - | - | | | - | | | | | |
| | 新たに追加した事業 | | 基幹事業 | - | - | | | - | | | | | |
| | | | 提案事業 | - | - | | | - | | | | | |
| | 交付期間の変更 | 当初 | 令和2年度～令和4年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | - | | | | | | |
| | 変更 | - | | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | | |
| | 指標1 | 居住促進区域内に居住する人口 | 人 | 49,414 | R1 | 49,910 | R4 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | 予定時期 |
| | 指標2 | 道路・公共交通に対する市民の満足度 | % | 43 | H30 | 50 | R4 | | 51,309 | ○ | あり | 駅前広場の改修や情報板の設置等により、駅周辺の利便性や交通結節点としての機能が改善され、人口増に寄与している。 | R7年度 |
| | 指標3 | 人身事故件数 | 件 | 36 | H30 | 30 | R4 | | 46 | △ | あり | 駅前広場改修直後は満足度が目標値近くまで上昇しており、一定の効果が発現したと考えられるものの、令和4年度の評価値については目標未達成となっている。 | |
| | 指標4 | | | | | | | | | | あり | 交差点改良や駅前広場、歩道の整備により交通の安全性が高まったことが寄与している。 | |
| | 指標5 | | | | | | | | | | なし | | |
| 指標5 | | | | | | | | | | なし | | | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | | |
| | その他の数値指標1 | バスターミナルへの一般車交通量 | 台/2h | 479 | H29 | | | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | 予定時期 |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | 2 | | | 駅前広場の配置見直しによりバスと一般車の通行を分離することができたため、利用しやすい安心・安全な駅前空間を確保することができた。 | |
| | その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | ・和泉中央駅周辺で商工フェスタ等のイベントの開催により、多数の人が集まり駅の賑わいが創出されることで魅力あるまちづくりに貢献している。 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | なし | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | - | | | | | | | | |
| | 官民連携による取組 | なし | | 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した | - | | | | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | - | | | | | | | | |
| | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | - | | | | | | | | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | なし | | 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した | - | | | | | | | | | |
| | | | 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | - | | | | | | | | | |
| | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた | - | | | | | | | | | |

様式2-2 地区の概要

和泉中央駅周辺地区(大阪府和泉市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 | |
|--|-------------------|------|-----------|-----------|-----------|
| 大目標:誰もが快適で安心して住み続けられるまち(スマイル(住まう・居る)都市)の実現 目標1:住み続けたいくなる快適な都市環境の整備(誰もが安心・安全に通行できる快適な駅前・道路空間の創出) 目標2:外出を容易にする交通機能の充実(利用しやすい公共交通の充実、交通結節点機能の改善) 目標3:地域の特性を活かした魅力あるまちづくり(住み続けたいくなるまちづくりを目指し、歴史・文化のまちとして発信できる駅周辺の機能の充実) | 居住促進区域内に居住する人口 | 単位:人 | 49,414 R1 | 49,910 R4 | 51,309 R4 |
| | 道路・公共交通に対する市民の満足度 | 単位:% | 43 H30 | 50 R4 | 46 R4 |
| | 人身事故件数 | 単位:件 | 36 H30 | 30 R4 | 30 R1~R4 |

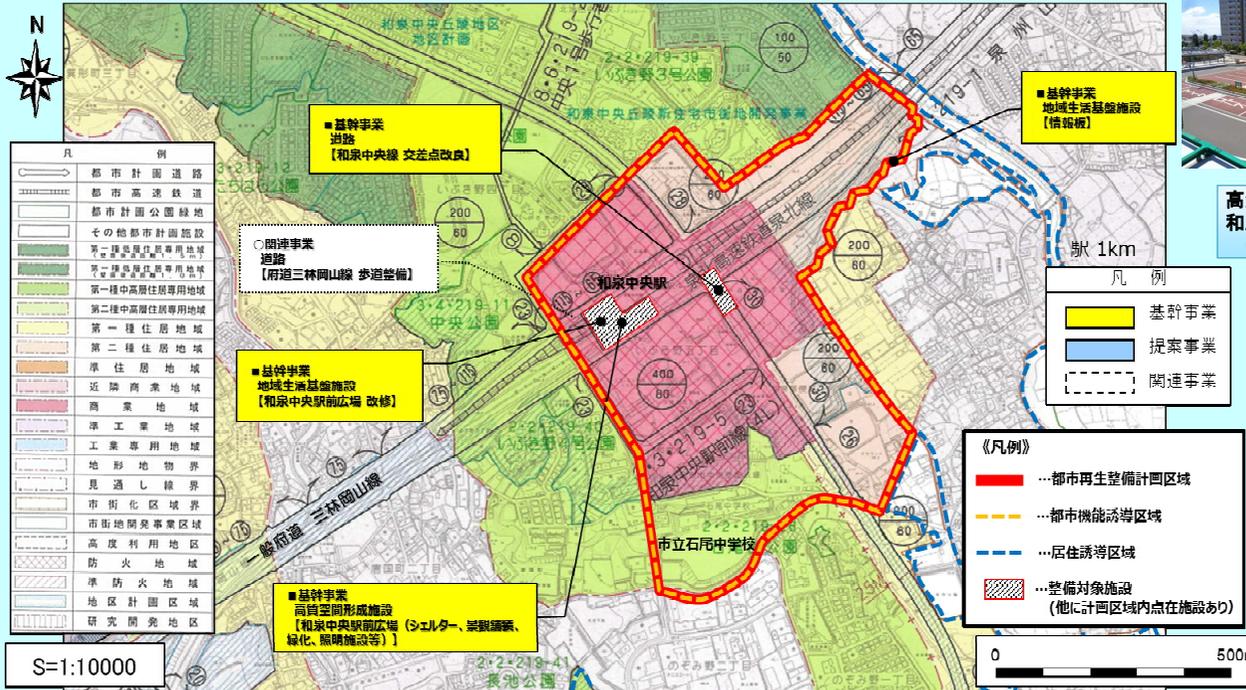
基幹事業



道路事業 和泉中央線 交差点改良



地域生活基盤施設 和泉中央駅前広場



高質空間形成施設 和泉中央駅前広場 (緑化施設等)



地域生活基盤施設 情報版



高質空間形成施設 和泉中央駅前広場 (歩行者支援施設等)

まちの課題の変化

・和泉中央駅周辺において、歩行者の乱横断や駅前広場へのアクセス性などが課題として挙げられていたが、駅前広場の改修による歩道拡幅や三林岡山線の歩道設置により、歩行者動線が確保されたことで安全な歩行空間が確保された。
 ・「バスターミナルへの一般車の流入」や「一般車乗降場の増設・アクセス性の向上」、「歩行者の乱横断」、「シェルターなどの機能充実」などが課題として挙げられていたが、駅前広場の改修によりバスターミナルと一般車の進入経路を分け、一般車乗降場を設けることで、バスターミナルへの一般車の流入や駅周辺道路への送迎車両の駐車等の防止を図ることができた。また、駅前広場のシェルターを改修したことにより、歩行空間の快適性が向上している。
 ・周辺地区において大型商業施設の出店などにより慢性的な交通渋滞が発生しており、生活の基盤となる道路の円滑な交通を妨げられていたが、和泉中央線において、交差点改良を実施することにより、和泉中央駅周辺地区の慢性的な交通渋滞が一部改善された。しかし、一般府道三林岡山線の慢性的な渋滞が課題として残っている。
 ・和泉市久保惣記念美術館までの円滑な誘導を行うサインが不足しており、地域資源を上手く活かしていないことが課題として挙げられていたが、和泉中央駅を中心として複数箇所に情報板を設置することにより、美術館等への円滑な誘導を行うことが可能となった。
 ・交差点改良や駅前広場の改修により、安全で快適な駅前空間が確保され、イベント開催時には地域住民をはじめ、多数の人が集まり、まちの賑わいが創出されるようになった。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

・整備した駅前広場や情報板の機能を維持するため、舗装やシェルターの定期点検や情報板の内容を適宜更新し、最新情報を提供する。
 ・快適性や安全性の向上を目的として、ミスト発生器の設置による駅前の猛暑対策や鉄道駅でのホームドアの設置(東北高速鉄道)を行う。
 ・駅周辺へのアクセス性や利便性を更に高めるため、府が実施する事業(一般府道三林岡山線 道路改良事業)と連携して、引き続き、円滑な交通流の確保に努める。
 ・自動車、自転車の安全な通行を確保するため、ナッジなどを活用した方策の検討を行い、交通環境の形成に努める。
 ・今後、同種事業(北信太など)で駅前整備を行う際には、今回の整備計画で実施した駅前広場の配置見直し結果を踏まえ、駅利用者にとって安全で快適な道路空間の整備を行う。